

## 平成30年度第1回生野区区政会議 こどもの未来部会

### 1 開催日時

平成30年5月23日（水） 19時00分～20時35分

### 2 開催場所

生野区役所 5階 502・503会議室

### 3 出席者

（区政会議委員） 8名

岩井委員、米川委員、高岡委員、新井委員、清水委員、原田委員、村上委員、伊藤（廣）委員

（その他関係者） 2名

大藤区PTA会長、山口区PTA副会長

（生野区役所） 12名

山口生野区長、深見副区長、橋本企画総務課長、井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、大川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区地域活性化担当課長、山口地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長、前川保健福祉課長、清水区政推進担当課長、樋口こども未来担当課長兼教育委員会事務局総務部首席指導主事、松並安心まちづくり担当課長、杉本企画総務課長代理、戸川企画総務課長代理

### 4 委員に意見を求めた事項

（1）平成29年度生野区の取組みの振り返りについて

資料1 平成29年度の生野区の取組み振り返りについて  
：こどもの未来部会用抜粋分

（2）その他

参考資料1 前回の部会でいただいたご意見・ご提言（要約）と区  
の考え方、対応

### 5 会議内容

#### ○岩井部会長

皆さん、こんばんは。部会長の岩井でございます。また今日は大変お足元の悪い中のご参会であります。ありがとうございます。市の区政会議にご熱心な議論をいただいております。重ねてお礼を申し上げます。

それでは、ただいまから、平成30年度第1回こどもの未来部会を開

催いたします。区政会議は地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、区役所と一緒にあって意見を述べる場となっております。部会で出された意見は全体会議において報告し、共有することになります。その中でこの部会は、生野区のこども子育ての分野について、有効で活発な議論が行われるように意見を交換して進めてまいります。皆様、よろしく申し上げます。

それでは、まず最初に、開催に当たりまして山口区長からご挨拶のほどよろしく申し上げます。

○山口生野区長

皆さん、こんばんは。本日はお忙しい中、またお足元の悪い中お集まりいただき、まことにありがとうございます。

区長になって1年、平成29年度の取り組みについての振り返りについてご意見いただくということで、前回もこの区政会議、部会というのは、平成30年度の取り組みのお話をしましたので、ちょっと戻る感じはいたしますけれどもよろしく申し上げます。どうしても学校再編の話ばかりになりがちなんですけどそうではなくて、ちょっとちっちゃい、本当に生まれたばかりの赤ちゃんをお持ちのお母さんのイメージとかこどものイメージ、幼児であったり、いざ学校に入ろうかなという年齢であったり、そして小学生、中学生、高校生ぐらまで、一般的には青年ぐらまでというのをイメージしていただいて、ご自身がそれぞれ知ってるこどものイメージであったり近所のお子さんのイメージ、またそういったこどもたちがどうしたら生野区にたくさん来てくれるんだろうという視点も持って、またいろんな忌憚のないご意見をいただければと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

○岩井部会長

ありがとうございます。

それでは、議事に入るに当たりまして、これから学識の委員であります大阪市立大学の清水委員に会議の進行をお願いしたいと思います。清水委員、よろしく申し上げます。

○清水委員

皆さん、こんばんは。座ったままで失礼します。部会長からご指名いただきました清水でございます。これから会議の進行をさせていただきますので、皆様、よろしく申し上げます。

それでは、お手元の会議次第に沿いまして、議事（1）平成29年度生野区の取組みへの振り返りについて、区役所からご説明を願います。

○戸川企画総務課長代理

皆様、こんばんは。企画総務課長代理の戸川です。よろしく申し上げます。

それでは、全体の概略について、私のほうから説明させていただきます。

ます。着座にて失礼いたします。

今回、区役所からご説明いたしますのは、平成29年度生野区運営方針に記載しております取り組みに関して振り返りを行うということでございます。全部の内容をこの場でご説明する時間はございませんので、中身についてざっと触れておきますと、主な経営課題として6つ設定しております。

経営課題1、安全・安心のまちづくりの推進、経営課題2、地域福祉の推進、経営課題3、こども・子育て支援の充実、経営課題4、魅力づくり・活力ある地域づくり、経営課題5、大きな公共を担う地域社会づくり、経営課題6、自律した自治体型の区政運営の仕組みづくりとなっております。それと、市政改革プラン2.0に基づく取り組みとしまして、市内24区で共通して取り組みを進めるものが含まれております。それぞれの経営課題ごとに具体的な取り組み、施策事業を実施し、29年度1年間を振り返って自己評価を行うことでPDCAを回していくということになっております。

本日、こどもの未来部会でご説明し、ご意見をいただきますのは、資料1の①1ページに示しております平成29年度の主な取組、子育て支援の充実、教育環境の整備でございます。後ほどそれぞれの担当の課長から詳しいご説明をいたしますが、子育て支援のところでは絵本プロジェクトや子育て応援イベント「いくのっ子広場」、また29年度途中から始めました区長の似顔絵とメッセージを掲載した「いくみん子育て通信」などの各種広報についてご説明いたします。

続きまして、教育環境整備に移りますと、まず生野区西部地域の学校再編整備計画についての29年度の取り組み実績と今後の予定をご説明いたします。

学校・教育コミュニティ支援の関連では、各学校での支援活動に従事いただくボランティアの募集や登録に関わる学校支援ボランティア人材バンク事業についてご説明いたします。

それから、区内の小中学生を対象にした多様な学習機会の提供、こどもたちの学びの支援に焦点を当てて、「模擬検定のススメ」「小・中学校交流かけはし事業」「生きるチカラを育む課外授業」「食と会話を楽しむ英語体験事業」について取り組みのご紹介をいたします。

私からの説明は以上でございます。

続きまして、それぞれの項目につき担当の課長よりご説明いたします。よろしく申し上げます。

○山口地域福祉推進担当課長兼政策推進課長

地域福祉推進担当課長兼政策推進課長の山口です。

私のほうからは（1）地域で支える子育て支援についてご説明させていただきます。着座にてご説明させていただきます。

まず、資料1の右肩の②なんですけども、当区では区民が安心して

こどもを産み育てることができる環境や相談支援体制をつくり、子育てが楽しくなるまちづくりを進めています。主な取り組みとして、まず「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」です。この事業は、乳幼児から絵本に触れて、絵本の読み聞かせを体験する機会をつくる取り組みですが、実績としましては、絵本の読み聞かせを広く浸透させるために絵本サポーターを養成して3か月児健診のときに読み聞かせを行っていただきました。その体験を通じて子育て世帯に家庭内での読み聞かせを根づかせ、豊かな親子関係の構築や、夢や希望にあふれたこどもの育成を図ってまいりました。また、1月27日には、当区としては初めてとなる絵本イベント、「みんなで楽しむ絵本PARK in いくの」を開催しました。当日は500冊の絵本の展示、「ぐりとぐら」のなりきりフォトスポット、面展台ワークショップなどの催しのほか、「うどんのうーやん」などの絵本でおなじみの岡田よしたか先生の絵本ライブも行いました。当日は766名の方々にご来場いただき、一時は会場に入れたい人が出るぐらい盛況となりました。

続きまして、③なんです。29年度の目標といたしましては、絵本サポーター養成を10人以上としていましたところ、12人養成することができました。また、絵本サポーターの活動場所としての事業やイベントの開催を1事業以上としていましたが2事業実施することができ、目標を2つとも達成することができました。

今後も、広く絵本の良さや読み聞かせの必要性や楽しさを知る機会をつくるとともに、区民の皆様と協働して絵本サポーターの育成にも引き続き取り組んでまいります。

続きまして、右肩④ですが、①いくの子育て応援事業と②子育てに関する効果的な情報提供について、ご説明します。

まず、①いくの子育て応援事業ですが、地域で子育て支援活動を行っていただいている皆様と一緒に、子育て応援イベント「いくのっ子広場」を開催しました。29年度は3回の実施で850名の方々にご参加いただきました。今後も「いくのっ子広場」を通じて子育てに関する様々な情報をお伝えしながら、保護者の方同士で情報交換できる場を提供してまいります。

続いて、⑤、②の子育てに関する効果的な情報提供についてです。

昨年11月に開設しました子ども・子育てプラザの子育て情報サイト“いくのde育～の”を活用して、地域の子育て支援情報などを効果的に発信するとともに、山口区長による「いくみんな子育て通信」を4回発行しました。また、お子さんが生まれたときのいろいろな手順などをわかりやすくまとめたファイル「いくみんなびよびよファイル」を、母子健康手帳をお渡しするときに一緒にお渡ししています。このスライドに添付している写真は、“いくのde育～の”のトップページと「いくみんな子育て通信」の最新版です。“いくのde育～の”は、平

仮名で「いくーの」と検索していただくと3番目までには出てくると  
思いますので、委員の皆様もぜひアクセスしてください。

続きまして、右肩⑥、29年度の目標ですが、取り組みに参加した養  
育者について、こどもの養育に参考になったなど肯定的に感じた割合  
を80%としていましたが、実績としては98%の方に子育ての参考にな  
ったなど肯定的な評価をいただき、目標を達成しました。今後もこれ  
らの取り組みをより多くの方々に知っていただきご参加いただくとと  
もに、子育て世帯以外の方々にも様々な子育て支援の取り組みがある  
ことを広く知っていただくことが必要であると考えています。より情  
報発信を強化し、区民の皆様にご子育てのしやすいまちであると思っ  
ていただけるよう、引き続き取り組みを進めてまいります。

私のほうからは以上です。

- 井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長  
失礼いたします。地域活性化担当課長、井平でございます。どうぞ  
よろしくお願いいたします。

私からは、教育環境の整備について説明させていただきます。着座  
にて失礼いたします。

まず、資料の右肩⑦から⑨、学校配置の見直しについてございま  
す。生野区西部地域学校再編整備計画の進捗状況でございますが、ま  
ず中学校の再編におきましては、鶴橋中学校が平成31年度に全学級単  
学級となる見込みであるため、これを早期に改善する喫緊の課題と位  
置づけ、取り組みを進めてまいりました。平成29年12月に保護者や地  
域から推薦いただいた方で構成する「勝山中学校・鶴橋中学校学校設  
置協議会」を発足しまして、開校に向けて必要な詳細事項について協  
議、意見交換を行ってまいりました。現在、新たな中学校の開校場所  
を勝山中学校の校地とする、開校時期を平成31年4月を目標とする、  
校名を桃谷中学校とすることが決議されているところでございます。

現在開催されております大阪市会において、学校設置条例の改正案  
の審議が行われているところでございます。

続きまして、めくっていただきまして⑧です。

小学校におきましては、議論のたたき台となる学校整備計画素案を  
中学校区ごとにお示しし、意見交換を行った上で具体的な学校整備計  
画(案)を作成することといたしました。現在のところ、平成29年12  
月より生野中学校区、田島中学校区で意見交換の場が発足しておりま  
す。今後は、両中学校区においては、学校設置協議会準備会、将来の  
学校を考える会において、こどもたちにとってより良い教育環境づく  
りのための議論を重ねるとともに、勝山中学校区、鶴橋中学校区、そ  
れと大池中学校区におきましても意見交換の場の設置に向けて検討を  
続けてまいります。

次に、⑨です。全体の取り組み状況でございます。

昨年7月、これからの生野区が目指す教育内容を示した「生野の教育」を公表し、その中で今後の進め方も示した上で各中学校区において複数回の説明会を開催し、2つの中学校区において学校設置協議会準備会を、また中学校の再編に係る1つの学校設置協議会を設置し、意見交換を進めてきております。平成29年度の業績目標の達成状況につきましては、勝山中学校、鶴橋中学校の再編において学校整備計画（案）を策定しまして学校設置協議会を設置しております。新たな学校の開設に向けて現在取り組んでおりまして、業績目標は達成したものと考えております。

次に、めくっていただきまして⑩でございます。

学校・教育コミュニティ支援としまして取り組んでおります学校支援ボランティア人材バンク事業についてでございます。平成29年度の実績として、新たな人材確保のため大学生への広報を強化したこともあり、平成28年度より18人増加し、延べ62名の方に登録をいただきました。しかしながら、ボランティアの活動につきましては、小学校8校、15人の方に活動いただくことができたところですが、業績目標としておりました20人以上の方の活動には届いておりません。その原因として、ボランティア等学校のニーズとのマッチングがうまくかみ合わなかったことが考えられます。

その一方で、学校長からは人材確保の強化を望む声や、学校支援ボランティアを有効活用することで学校図書館の開館も進められたといった前向きな意見もいただいているところでございます。

これらを踏まえて、30年度も引き続き広報紙や区のホームページ等で広報を行うとともに、学校がどのようなボランティアを必要としているかなど詳細に確認した上でボランティアの募集の内容について検討していきたいと考えております。また、学校がボランティアをより活用しやすくするために、ボランティア登録者の活動状況がわかるような情報提供の工夫を行うことで、これまで以上に効果を生み出せるよう取り組んでまいりたいと考えております。

次に、⑪です。多様な学習機会の提供についてご説明させていただきます。

⑪「小・中学校の交流かけはし事業」でございます。「小・中学校の交流かけはし事業」につきましては、小学生が中学校生活を楽しく過ごすために段差なく移行できるよう、また学校の先生同士の連携が深まるなど、小中連携の促進の効果も見据えて平成28年度より実施しております。平成29年度についても、区内中学校区で外部講師による授業や部活動体験などを実施し、約1,200人のこどもたちが交流することができました。授業終了後に参加した児童・生徒にアンケートを行ったところ、87%の児童・生徒たちから「異なる年齢や学校の児童・生徒と交流できてよかった」と回答をいただきました。また、教

員からも「本事業を通じて教員間での情報共有が図りやすくなった」などの声がありました。学校長からも教育行政連絡会を通じて小中の交流を充実させたいといった意見もいただいております。

続きまして、めくっていただきまして、資料⑫「学び支援事業模擬検定のススメ」でございます。

平成29年度から、小学生の学力の向上を目指し児童の学力状況の把握と自主学習習慣の確立を目的に外部試験の受験を学校が活用できる機会の提供を行っております。小学校12校で実施されているところでございます。

自主学習を全くしないと答えた児童を事業実施後に半減するという目標を立てておりましたが、実際には達成に至っておりません。同事業アンケートにおいて、過半数の児童からは模擬検定のための学習が楽しかったとか、また同様の模擬検定を受けたいとの回答をいただいているところではございます。また、学校からは事業の継続実施を求める意見が強く、平成30年度には16校が実施を検討しており、この事業自体は児童の学習意欲の向上につなげていけるものではないかというふうに認識しているところでございます。

平成30年度は、「外部試験を児童の自主学習のきっかけづくりに活用」とする目的を学校とさらに共有を深めていくため、校長会等の連絡の機会を活用するなど、よりきめ細かに連携を図りながら児童の学習意欲の向上につながるよう取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、⑬です。「生きるチカラを育む課外授業」でございます。

「生きるチカラを育む課外授業」につきましては、中学校の校舎を活用して比較的年齢の近い大学生などを講師としまして進路選択などの悩み相談の場を設け、将来の夢や進路について生徒が具体的に考えられるよう支援しているほか、学習習慣の定着や基礎学力の向上のための授業を行っております。参加者への事業実施前と後にアンケートを行った結果、将来の夢や目標を持っていないと答える者が事業実施前4名から事業実施後2名ということで、目標は達成できたと考えております。

しかしながら、募集定員30名のところに受講者が22名となっており、受講者を増やすよう周知方法など工夫、検討し、事業参画を促していく必要があると考えております。

続きまして、めくっていただきまして、⑭です。「食と会話を楽しむ英語体験事業」でございます。

現在、生野区には様々な国籍の方が居住されており、多様な文化に触れる機会が多くあります。そのような中で、多様な文化を理解、尊重し、英語になれ親しみ、自らの表現力を高めるなど、社会のグロー

バル化に対応できる人材づくりが必要となっております。

平成29年度は、こどもたちの誰もが親しみやすい食をテーマとして設定し、自己表現、コミュニケーションを高めることを目的として英語に触れる体験事業を小学5、6年生と中学生を対象に8月6日から8月11日の5日間のプログラムで実施いたしました。

⑮のほうを見ていただきまして、参加者からは「英語が少し話せるようになってうれしい」、「英語が全然わからなかったけども英語が好きになった」などの意見が多くあり、「今回の経験が今後積極的に生かせるか」との問いに対して91%の肯定的な回答があり、業績目標を達成していると考えております。

私からの説明は以上でございます。

○戸川企画総務課長代理

続きまして、⑯、16ページをご覧ください。目標の達成状況と総括的評価についてのご説明をさせていただきます。

今担当の課長からご説明いたしました主な取り組みの8項目、「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」、「子育て情報の発信と提供」、「西部地域での学校再編整備計画」、「学校支援ボランティア人材バンク事業」、「小・中学校交流かけはし事業」、「学び支援事業模擬検定のススメ」、「生きるチカラを育む課外授業」、「食と会話を楽しむ英語体験」についてでございますが、業績目標の数値と実績数値は、お示ししたとおりとなっております。取組件数8件に対して目標達成できたものが6件、未達成が2件となっております。

評価結果を総括いたしますと、29年度に行いました子育てに関する様々な取り組みにつきましては、参加者の皆様へのアンケートでも高い数値を獲得でき、好評でありました。30年度も引き続き効果的な子育て情報の発信に努めますとともに、多くの区民の皆様が参画できるような取り組みとなるよう目指してまいります。

また、学校再編などの様々な取り組みにつきましては、地域の皆様方により一層わかりやすい説明と意見交換を行った上、学校再編に向けての基本合意を得るための取り組みを進めていきますとともに、こどもたちの学習意欲を高めることや自主学習習慣を確立させるなど、より良い教育環境を提供していくことを目指してまいります。

以上で資料1のご説明を終わらせていただきます。

○清水委員

ただいまの説明について、委員の皆様、何かご意見やご質問などございませんでしょうか。

なお、ご発言いただく際には、挙手の上、お名前を述べていただきますようご協力をお願いいたします。

29年度で既に取り組んだものの総括という内容でしたけれども。

○新井委員



中川地域の新井です。よろしくお願ひいたします。

資料の②なんですけれども、絵本の読み聞かせ、絵本サポーターのことなんですけれども、3か月児健診で絵本の読み聞かせを実施ってなってるんですけども、これをまた広くほかの1歳児健診とかに広げていくとかということはあるんでしょうか。

○清水委員

3か月児健診での読み聞かせの機会ですけれども、今後ほかの健診機会等へ広げていく可能性があるんでしょうかという質問ですけど。お願ひします。

○山口地域福祉推進担当課長兼政策推進課長

地域福祉推進担当課長兼政策推進課長の山口です。

前回の区政会議でもちょっとお話しさせていただいたんですけども、今現在3か月児健診だけでやらせていただけてまして、今年度から1歳半健診にも広めていきたいなというふうには思ってるんですけども、ちょっとこの4月から新しく絵本サポーターになった方が半分ぐらいいらっしゃるので、今ちょっと3か月児健診で慣れていただくことに専念してまして、広げるのはひょっとしたら9月、10月ぐらいを目途に今検討しているところです。

○新井委員

ありがとうございます。

○清水委員

ほかにいかがでしょうか。お願ひいたします。

○伊藤（廣）委員

地域振興会の伊藤でございます。今、絵本プロジェクトのことなんですけれども、これは、今、健診が主にとのことですが、将来的には各地域でイベントを行うときに来ていただいてこどもたちに絵本を読み聞かせていただくことができる、そういうことをお考えなんですか。

○清水委員

お願ひいたします。

○山口地域福祉推進担当課長兼政策推進課長

今とりあえず健診で、29年度から始めたところで、まだ今現在20人サポーターさんを養成してるんですけども、その20人がしょっちゅう来られるわけではなくて、やっぱり皆さん、お仕事とかの間に来ていただいて、数的にもあまりそろわないときもあります。引き続き絵本サポーターの養成は毎年10人ぐらいをベースにやっていきたいなと思ってまして、ある程度その絵本サポーターの方の数と、それから能力というんですか、経験値を上げていった上で、将来的にはこの事業だけではなくて、地域でのサロンであるとかそういうところに派遣していきたいというふうに思ってますが、具体的にいついつまでどうと

いうのは今現在まだ決めかねてるところです。私らだけでは。ボランティアの皆さんの協力が必要なので、もうちょっとお時間をいただきたいなというふうに思ってます。

○伊藤（廣）委員

それでは、まあ言えば将来的にはそういうことを見越してサポーターの養成も行っておられるということですね。

○山口地域福祉推進担当課長兼政策推進課長

はい。

○伊藤（廣）委員

ありがとうございます。

○清水委員

サポーターの育成がこのまま蓄積していき、発展していけばまた活動の場も広がる可能性がありますし、また活動の様子が周知されればいろんなところでの意見やアイデアも出てくる可能性があるという、とても前向きな状況かなと思いました。

ほかにございませんでしょうか。お願いします。

○村上委員

巽の村上です。⑫の多様な学習機会の提供のところなんですけど、取組実績として模擬検定等の外部試験12小学校にて実施とありますが、たしか生野区には19小学校があったと思うんですけど、7校は実施してないわけですね。その理由と、受験人数が549名となっておりますけど、学年は1年から6年まで全てか、それか学年が限られているのか。また、外部試験ということは、試験の会場というのは、その小学校でやられてるのか、外部の会場に行かれてるのか、また、その費用についてはどれぐらいかかっているものかと。

お願いできますか。

○井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長  
地域活性化担当課長、井平です。

この「模擬検定のススメ」につきましては、昨年度から実施しております、学校が学校の教育、部活動の中で、1年間のスケジュール、結構組まれてるところもありまして、昨年度始めたということで、準備も含めてできてない学校もあったということで19校中12校。中には、その検定を使わずに独自にいろんな授業等をされて効果を出してはるということもあるんです。今年度16校で増えてるんですけども、まだ全校ではないので、そのあたり学校の中でどういった効果を出されるかということを検討されながら活用の有無を考えているということもあるかなと思います。

実施の学年でございますが、現時点での制度としましては、各学校1学年で実施いただくという形になっております。それぞれどの学年で活用していくのがいいのかというのは学校の中で考えていただきま

して、去年で言いますと2年から6年。1年はなかったですけど、それぞれのどこかの1学年で活用されてる状況でございます。

受検につきましては、外部の検定ですけども、テストを送っていただくか入手する形で学校で受けているところでございます。

費用につきましては、今、資料がないので、申しわけございません。

○村上委員

もう1つやけど、これ、受けるのは任意なんですか。希望者だけ。

○井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長  
基本的には学年全ての取り組みですので、学校でこの学年でやっていこうということで、授業での指導しながらとあわせて取り組んでいます。

○村上委員

授業中の時間を利用してですね。

○井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長  
はい。

○村上委員

わかりました。

○清水委員

ありがとうございました。

そのほかご意見、ご質問ございませんでしょうか。

どうでしょうか。

清水より1つ質問させていただいてよろしいでしょうか。

⑩の学校教育コミュニティ支援のところ、学校支援ボランティア人材バンク事業について、目標が未達成ということで今後の課題を述べられていましたが、ニーズのマッチングの問題とか情報提供の仕方の問題というのがあったそうですが、どういう不一致というか、学校が求めるところがどういったところで、ボランティア登録の方とのやりたいという分野の違いというのをもう少し教えていただけますでしょうか。

○井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長  
地域活性化担当課長、井平です。

ここにつきましては、学校のニーズで言いますと、何曜日のどのぐらいの時間にこういった方に来てほしいというニーズがあるんですけども、ボランティアの方でいうと、逆にこの曜日は無理やとか、地域の方でいうと大体お住まいの近隣の学校やったら行けるけどちょっと遠くてしんどいかなとか、そういった、特に曜日とか時間も含めて、こういった支援ができるんかというところがなかなかうまく合わないところがございまして、人数的にもまだ62名ということもありますので、そのあたり、登録者も確保しながら、学校のほうにもしっかりとニーズを聞いて募集のときにこういう方に来てもらえませ

んかというような募集の仕方も含めて今年度は準備を進めておりますので、そういった形で何とか学校の支援がしっかりできるように取り組んでおります。

○清水委員

わかりました。

具体的にどういう支援内容をされてるのか、少し教えていただけますか。

○井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長  
中学校で言いますと、部活動の支援であるとか、あとは小学校、中学校ともに授業の見守りであったりとか、実習のときに先生と一緒に入って支援をしたりですとか、あとは図書館ですね。学校図書館を開館するのに当たって図書館のボランティアをしていただくというケースが結構多くなっております。

○清水委員

ありがとうございました。

委員の皆様、いかがでしょうか。お願いします。

○伊藤（廣）委員

学校の再編のことなんですけれども、小学校が再編された場合、何校かありますけれども、統合された学校は地域の、何ていうんですか、防災拠点になるというように聞いております。建物というものは維持管理をしていく必要があると。それについてはどのようにお考えになっているのかということをお聞きしたいと思います。

○大川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長

地域活性化担当課長の大川です。

今のご質問です。基本的にこの間区役所として説明してますのは、災害時の避難所、防災拠点として残しますということをまず申し上げております。実際残していくとしても、実際に建物を何も使わなければ当然朽ちていくこととなります。ただ、そのまま置いておくとしても維持管理というのは必要になってまいりますし、そういったコストという問題も出てきますので、そういった維持管理に係るコストを生み出しながら管理していく方法がないかと。要は、有効に活用しながら災害時に避難所として使用、利用できる、そういった活用方法。また地域から学校がなくなることによって地域が、まちが衰退するのじゃないかといったご意見もたくさん頂戴してます。ですので、学校が跡地になったとしても災害時の避難所としてちゃんと機能し得るような維持管理できる活用方法で、また、まちが衰退しない、逆に言うと、まちが活性化できるような、今まで、例えば学校で祭りですとか餅つきですとかいろいろ地域のほうで使っていたら、要はまちの活性化に努めていただいている、そういった活用も今後も継続してできる

ような、そういった具体的な活用方法というのをこれから検討していきまして、皆さんのそういったニーズもお伺いしながら検討していければというふうに思っております。

○伊藤（廣）委員

ありがとうございます。

そうであれば、例えば学校自体が大きな地域の会館というような感じで考えていくということもできるんでしょうかね。

そうすれば、例えばいろんな文化クラブをやっておられる方々を誘致して、そこで、例えば使用料をいただくという方法も考えられるのかということなんですけれども、いかがでしょうか。

○大川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長

地域活性化担当、大川です。

実は、学校の跡地を維持管理していく方法としまして、まず1つ目が地域で管理いただくという方法が考えられます。ただ、それについては地域が、要は維持管理していただかないといけないという非常に大変な仕事をしていただかないといけないということで、ちょっとこれは現実的ではないのかなと。手法の1つとして考えられると。

2つ目としまして、ほかの自治体である事例なんですけれども、地域の団体をNPO法人化していただいてNPO法人として管理していただく。そこで、例えば貸し部屋、貸し運動場とかいう形で使用料収入を得ながらNPOを運営していただくという方法。他の自治体でございます。

3つ目に民間企業に学校を貸し出す。ただ、当然貸し出すときには条件、災害時には避難所として使いますと。例えば地域の団体でこういう行事のときには無償で使えるようにしてくださいという民間企業に有償で貸し出して管理していただくという方法が考えられます。

学校って非常に大きい施設になってきますので、そういった個別、1つの団体でというわけではなくて、例えば校舎ごとに、今申し上げたようなパターンで、例えば地域で管理していただくエリア、NPO、民間企業、当然区役所としても災害時の備蓄物資ですとかそういったスペース、区役所としても管理していくスペースが出てきますけれども、そういった複合型というのも考えられます。

ただ、どうしてもまちの活性化につなげる、で、災害時の拠点として必要、ただランニングコストいうのをあわせて稼ぐことができないかということも含めて検討していきたいと思っております、実は今年度区役所のほうで、そういった跡地を活用してまちの活性化にもつなげるような仕組みができないかということで、いろんな調査をした上で構想をつくっていくのをお手伝いいただく業者、予算をとりまして業者と契約をしております。我々だけでは非常に難しい課題というのを

認識してしますので、そういった形で今後、実際に学校が跡地として発生するまでの間にきっちりと皆さんの意見を伺いながら、また実際にそういった管理しながら地域の方にも使っていただくという運営を考えられるような民間事業者ですとかそういったところを探す。そういったことも含めてきっちり検討していきたいというふうに考えております。

○伊藤（廣）委員

ありがとうございます。その問題については、今後区役所のほうを中心に検討されていくということですね。

ありがとうございました。

○清水委員

そのほかご意見、ご質問、いかがでしょうか。

29年度の振り返りとなると、もう終わってしまったことでなかなかご意見など出にくいかもしれませんけども、じゃ、ちょっと委員の方のお隣同士で結構ですので、ちょっと10分ほど自由にちょっと意見交換というか、こういう場だとなかなか意見が出にくいこともありますので、ちょっとお隣同士でざっくばらんに話し合っ、後でまたご意見がありましたらそこでお話を伺いたいと思いますので、ちょっと皆さん、リラックスしてお隣同士など顔を寄せ合ってお話しいただければと思いますので。

席を移動されても結構ですけれども。いいですか、このままで。

○井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

すみません、先ほど質問いただきました「模擬検定のススメ」のところの単価というか、経費の話なんですけども、1人受けるのが1,000円以内で、平均すると700円ぐらいの単価の事業になってます。検定によって多少経費は違うんですけども、そういった形で取り組んでおります。

○村上委員

ちなみに、聞いてよろしい？受けたこどもたち、いますやんか。

これ、全国レベルの模擬試験かどうかわかりませんが、どの辺の位置にいますの？受けた子は。

○井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

全国で同じものを受けて、その結果が出てどのレベルかというのはわからないんですね。その検定を利用して、その学校だけで取り組んでますので、個人の成績が、学校の中でどの位置かというのはわかると思うんですけど。

○村上委員

全受検者の相対的にどこにいてるかというのはわからんわけやね。

○井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

そうですね。それはわからない状況ですね。学校の中でその結果を

受けて、取り組んでおられるということになります。

○村上委員

以前、何かありましたやん、統一テストが。

○伊藤（廣）委員

統一模試か何かいうのね。

○村上委員

大阪市は大体どれぐらいにいてるというのがありますやんか。ちょっと漏れ聞こえてくると、大阪市は大分下やと。生野区は大分下やと。僕の地域の小学校、中学校は大分下やと。大阪市から考えてもブービーかそれぐらいに入っとるから大丈夫かと言われたことが以前あったもんやから、そういうふうな、今ちょっとお聞きしましてんけど。わからなければいいです。

わからんのに受ける必要があるんかなって。

○山口区長

これはちょっとフォローさせてください。

○村上委員

どういう意図があるんですかね。

○山口生野区長

自分が、例えば漢字検定であれば漢字検定の何級を、自分は何級ぐらい取れるかなというところで、その問題集みたいなものもあるんです。そこで頑張っけて覚えて、実際テストを受けて、ああ、できた、できなかった、ここは覚えられてないからまた頑張ろうというところで、結果を図ります。要は到達度です。自分が立てた目標に向けて頑張るといふ。そういうものだと思っただけければ。だから、意味はすごくあります。

むしろ、全国学力テストなんかで思っくこともありますが、B問題というのは大変難しいテストなんですね。確かに全国平均から大阪市もしんどいし、さらにしんどいみたいな学校もあるとは思っくんですけれども、まずは基礎学力の部分でしっかり点が取れてるかどうかの振り返りが重要です。私、塾の先生だったのでわかるのですが、テストって結果も大事なんですけど、その結果というよりは今までやってきた勉強が正しかったかなとか、もうちょっとこういうところ勉強しといたら良かったかなとか、間違いをしっかりと振り返ることも大事やと思っけてますので、受けて無駄なテストはないと思っけております。個人的な見解もありますけども。よろしくお願ひします。

○村上委員

ありがとうございます。

（各委員、隣同士で話し合ひ）

○清水委員

では、もうお話も。よろしくお願ひします。

○伊藤（廣）委員

今ちょっと村上さんとも話をさせていただいてたんですけれども、多様な学習機会の提供ということで、民間事業者を活用してるということ、これ、「いくの塾」とどう違うのかということですよ。

あと、これは私たちのときはこんなんがなくて、学校の先生がちょっと残って一緒に勉強しようやと言ってくれた。そういうことができなくなってる時代なのか。

ということと、それと、じゃ、先ほどの人材バンクってありましたよね。この人材バンクの中にそういったボランティアでこどもたちの課外学習というんですか、学校が終わってからということを見てくれる方を募集することができるのか。それができたらこの人材バンクとこの課外授業というのは別にではなく一緒にできる部分がたくさんあるんじゃないかなと思います。

○村上委員

悩み相談とかね。

○伊藤（廣）委員

はい。今、村上さんが。悩み相談も含めての。そういう方も、これはこれ、これはこれじゃなくて、同じどこかで共有することができるのであればという具合にも思います。

確かに、この課外授業というのは必要なことかなと思います。わからないままで次へ進んでいってしまったら、ずっとその子はそこでまってしまうということですので、学力の底上げということでは本当に必要かなとは思いますがけれども、今後、そういった形で学校の先生が無理だからということなのかというののもちょっと。何ていうのかな、自分はそんなふうに思ってるということなんですけれど。

○井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長  
ありがとうございます。地域活性化担当、井平です。

この「生きるチカラを育む課外授業」といいますのは、1つの中学校でやってるんですけども、今言われてました「いくの塾」といいますのは、学校を活用して塾業者に入らせていただいて学校で塾をやっている。学校で授業を受けて学力向上につなげるというのが「いくの塾」なんですけども、この「生きるチカラを育む課外授業」につきましても、それに加えていろんな進路の悩みであったりとかそういう個々の悩みも含めて相談に乗っていただいたりとか、そういうこともしながら学力とか自主学習の定着とかを図っていかうということで、取り組んでいってるところでございます。結果を見ながら拡充できたというふうには考えておるんですけども、予算もありますので、今後効果を見ながらということでございます。

今言わせていただいております放課後の学習支援なんですけども、先生方も忙しい中でしっかりと対応いただいておりますけども、そこ



に関しましては教育委員会も含めまして学びサポーターという形で、支援する人を配置できるような予算もつけまして対応はしております。学校によっては週2回とか週3回、放課後にそういう人が見ながら自主学習をすとか、取り組みをされてるところもございます人材バンクを活用していただくことも可能なんですし、そういった予算等いろいろ活用しながらやっておられますので、今いただいたように、いろんな事業がいろいろあって、どれをどう使っていくのかということところはややこしかったりもしますので、そういったところを含めて教育委員会とも何とか連携しながら学校が使いやすいような形で事業を立てていければいいかなとは思いますが、現状はそういった形で、いろんな制度の中でいろんなことを活用していただけるような、学校がいろいろ選んでやっていただけるような形にはしていています。

○伊藤（廣）委員

ありがとうございました。

○清水委員

ありがとうございました。

いかがでしょうか、ほかに。お願いします。

○新井委員

「小・中学校交流かけはし事業」なんですけども、この取り組みが本当に再編にとっても小中連携と言われている中ですごく良い影響を与えてるんですね。これを深く推進して行ってほしいということと、あと、この「小・中交流かけはし事業」の中に、今言われている生（性）教育、生きるという教育と性の教育というのも、これは中学校だからとか小学校だからとかじゃなく、やっぱりそういう、これも連携していく中の事業の1つに組み込んでいただけたら学校としても今から取り組んでいく中でこれも入れていただけたら良いかと思うんですけれども、いかがでしょう。

○井平地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長  
失礼いたします。地域活性化担当です。井平です。

「小・中交流かけはし事業」につきましては、今全ての中学校区で取り組んでいただいているんですけれども、まず小学校と中学校の連携ということでやってまして、学校のほうでそれぞれの中学校区でどういう取り組みをしようという形でやっていただけてまして、実際は部活動の体験であったりとか中学校の授業の体験であったりとか、小学校から中学校に進学する時、急にじゃなくて事前に経験していくというような形で今やっていただいております。

今言われてます生（性）教育のところにつきましては、今年度新たに「生きるチカラまなびサポート事業」というのを実施するというところで、予算なり2月のときにはお話しさせていただいたと思うんですけども、学校でキャリア教育であるとか生（性）教育を行うに当たっ

て支援をしていくということで、区の講師をしっかりと探しまして、登録いただいた方を学校に紹介して、学校での取り組みを、さらに強化してやっていただけるような形で支援できるんじゃないかということでやらせていただこうと考えております。

何とか1学期中からスタートして、学校が使っていただけるよう進めていきたいと考えておりますので、またご支援いただけたらと思います。よろしく願いいたします。

○新井委員

ありがとうございます。

○岩井部会長

勉強不足でちょっとようわかりませんねんけどね、ちょっと聞きたいんですわ。

今、小学校でいきいき教室というのをやってますわな。あれはいつごろから始まって、大阪全ての小学校でやってるのかどうかいうこと、どうでしょうかね。

○深見副区長

副区長の深見でございます。正確じゃないんですけども、たしか始まったのは平成に入ってからぐらいやったと思います。それで、平成13年から全小学校で実施しております。

○岩井部会長

それで、ご近所の方がボランティアで何人か、四、五名いてはりますけれども、これはどんなことをやっとならうでしょうか。その、いきいき教室のこどもといますか、来てるこどもは。

○山口生野区長

ここは元小学校の校長と、娘がいきいきに行っておりますので、その立場からお話しさせていただきます。

基本的にはこどもたちは、学校が終わりますとそのいきいきの教室に入っていきます。まず、宿題をやって、その後は自由に遊ぶんです。保護者が払ってるのが今の時点では年間500円の保険料だけという、すごく全国的にも珍しい仕組みで、それでこどもたちは4時半とか、区ごと学校ごとに決まった時間に、1人で帰る子はもうその時間で帰ります。あと親が迎えにくる場合だけ6時までとか、あと学校によってはちょっとプラスのお金を払って1時間延長して、預かります。要はこどもを預かる、共働きで留守の親にとって放課後こどもが1人で遊んでるよりは学校にいて、いろいろ見てもらったほうがいいということで、基本は、いきいきにいて遊んでいます。ドッジボールしたり遊んだり、宿題したり、時々いろいろな方が来て、それこそ読み聞かせであったりとか将棋を教えてくれたりとか手品をやってくれたりとかそんなこともあります。夏休み、冬休みといった長期の休みにも朝から夕方まで預かってくれるので、保護者としては大変ありがたい仕

組みです。

○岩井部会長

いえいえ、ところで何でこんなことをお聞きしたかいうたら、結局この、今問題になってるのは勉強の遅れてるこども、そのこどもたち、予習というか、復習というか、ああいうところで教えていただいたらええかなというように思いましてですね。遅れてるこどもはついていかれへんとか、余計勉強できないとかいうことになりますので、そういう方面にちょっと力を入れたほうがええんかなといつも思っとるんです。どうでしょうか。

○井平地域活性化担当課長

失礼いたします。地域活性化担当、井平です。

いきいきの事業につきましては、区役所で直接やってるものではないので、なかなか内容については難しいんですけれども、そういった、今いただいたようなご意見というのはいろいろいただいていると聞いております。

ただ、なかなか、先生がいるわけではないですし、宿題を見るとかそういった形の支援はできると思いますけども、授業というか、学校の授業みたいに勉強を教えるというようなことになると、学校と同じように先生を確保してやっていくとなると、課題もあるというように聞いてますので、そういった中で今後どうしていけるのかというのを考えておられるとは思いますが、現状としてはまだ難しい状況というふうには、今聞いております。

○岩井部会長

わかりました。

学校へ行ったらこのことをいつも話をするわけですわ。教育というのはもうコストの問題違うやろと。ともかく遅れてる子をそこで、先生をお願いして、例えば2人でも4人でも5人でも予備の先生を置いてそこで勉強の遅れる子を教えていくと。これがベターやないかと、いつも言うんやけれども、予算がないんやとか、いや、先生が足らんやとか、もう決まり文句ですわ。せやけども、ほかにお金使うんやったらこの教育にまず第一に金を使わないかんということで、いつも区長さんにも言うように、予備の先生を置けど。きっちりやったら、休んだら大概2人、3人休んでます。そしたら、おる先生に皆負担がかかるでしょう。そうするとどっか手抜きしていかなあかんということになるんで余計しんどなるでしょう。だから、その点を、何とか区長さんの力で、全ての大阪の小学校に2人か3人予備の先生を置いてもらうようお願いします。

○山口生野区長

そうですね、校長をしてたときも、そうしたいのはやまやまなんです、年々やはり教員が削られていく。私たちは校長同士でよく愚痴

というか、よく話をしていました。減らされるとか、あと当然ですけども大量退職、大量採用の中で、40代のものすごくできる先生を送り出したり、50代のベテランの先生、頼りにしてた先生を送り出して、教育委員会のほうにぜひ同じぐらいの先生をお願いしますと言うんですが、来るのは新卒の先生とか本当に若い先生になってしまってるのが今の、大阪市だけじゃなくて全国的な状況です。5月にニュースで見たんですけど、広島県では35校で38人教員が足りず、ある中学校では国語と理科の授業が4月の間できなかつたというような事態にもなっていて、ああ、これはもう全国的な課題なんだなということを改めて感じています。

当然、各学校がしっかり子どもたちを見られるようにいろいろな、今は時代の変化もあってチーム学校という考え方があります。子どもの悩みを聞くのに例えばスクールカウンセラーでありましたり、福祉的な課題に対応するためのスクールソーシャルワーカーであったりといった、専門的な人が入って来たりします。例えば、図書館を週1回しっかりメンテナンスをするための図書館の補助員という制度があって、そこに週1回学校に来てくれたりとか、いろんな外部の人の力も入るようになっていきます。だから、そういったものをうまく組み合わせて専門性の高い人、外部の力もかりながら子どもたちを見られるようにはしていかなければならないと思っていますし、その中で学校の先生たちからもいろいろご要望というのは聞いてますので、また大阪市のほうにも言いながら議論は進めていきたいと思っています。

ありがとうございます。

#### ○清水委員

先ほどもありましたけど、⑫の「模擬検定のススメ」のところでの学校参加の達成度が低いということで、学校間格差がやっぱりあるのではないかとこのところ、例えば⑫のところ、業績目標でという数字があるんですけども、むしろ全ての学校で取り組みができてるかどうかということが評価になるのではないかと。

学校間の格差とか学力の底上げに対して、地域と教育委員会なり、どのように学力底上げに対しての取り組みができてるかというところの何か指標というか、頑張りどころが欲しいなという、そういう意見がこのあたりでは出ましたので、申し伝えておきます。

ほかにいかがでしょうか。お願いいたします。

#### ○山口区PTA副会長

14ページの「多様な学習機会の提供」とありまして、取組実績「国際語である英語への興味を向上させ将来、経済、社会、文化など様々な分野でグローバルに対応できる若者の育成を図る」と書いておりまして、生野区の目標が取りこぼさない多文化共生、生野区をグローバルとしてやっていくという目標なんですけど、もちろん国際語である英

語もとても大切なんです、今、東アジアですね、すごく発展してますので、西区なんかは東アジアの方が、とても多く来て、もう小学校なども足りなくらいで、生徒も増えてますし、本来ならば生野区がもともと国際的な区ですので、下に書いてありますように、料理とか、辻調理師の方と料理されてるみたいなんです、これは振り返りなんです、30年度、31年度に向けてそういった外国の方との触れ合いと、多言語ですね。英語だけにかかわらず多言語で、あと文化ですね。私自身、個人的には教育という部分で学力の向上というのも大切だとは思いますが、幼いころにこれからすごくグローバル化が進んでる中で、日本の学力も大切ですが、やっぱり文化とか触れ合いで、あと外国語なんかはすごく重要になってくるので、その辺のところをもっと重点的にお願いできないかなと思います。ありがとうございました。

○清水委員

何かこのご質問についていかがでしょうか。

○山口生野区長

ちょうど今年度多文化共生の具体的な触れ合いのイベントというのを12月ぐらいには予定をしています。今生野区に増えている外国の方はニューカマーの方ですね。留学生の方が大変多いので、その中でも一番区内で多い日生日本語学園さんとは4月に協定を結ばせてもらって、例えばこどもたちとの交流でありますとか、そういった機会がつけられたらなというところで、まだ話し合いをこれからというところになります。区のほうでも事業として考えています。いろんな国の文化に触れる機会をとっています。

いろんな言語に関してなんですけれども、確かに中国語とかでいろんなことを学べたらいいなと思います。しかし、まず学校現場としては英語が小学校におりてきたということだけで今多分ばんばんな状態ではありますので、まず英語からとは思ってはいます。ちょっと広報紙を5月から変えまして、たしか8ページに連載で毎回区の中に住んでるいろんな外国の人たちを毎月、紹介していこうというコーナー、「IKUNOグローバル」というコーナーをつくりました。こういったところも読んでもらったりとか、またちょっと啓発というか、進めていけたらなというふうには思っていますし、6月号では、ベトナムから来て、私が小学校の校長をしてたときにいたこどもが今、生野区に住んでいて、その子の家族に取材をさせてもらいました。だんだんと定着してきて、学校では当たり前と一緒に育つというふうになりつつあるんですが、今の時点で生野区で増えている外国籍住民の主流が留学生で、来て何年かしたら帰ってしまうという人たちも多いので、どんな形でまた交流していったらいいかなというのは、ぜひ私たちも考えていきたいと思っています。

ご意見、ありがとうございます。

○清水委員

ほかにいかがでしょうか。お願いします。

○大藤区PTA会長

私、実は3年前に中学の会長として入ってすぐに校長先生にお願いしたことがあります。見てると、あまり学習、授業とかというところに力が入ってるんじゃないなくて、もう高校に行かせるというところにだけ力が入ってるんじゃないかなというふうに思ってたので、行ける学校に行かせるんじゃないなくて子どもたちに行きたい学校に行けるような学習力、学力をつけてほしいということをお願いしたところ、この3年間かなり頑張ってくれた。やっぱりそれはPTAもやし、地域もやし、声を上げられる人たちというのはそれを上げていただきたい。それができるのはこの会議に出てる人。それを地域におろしてどんどんと前へ進めてもらえるようにぜひお願いしたいんです。

私、これでもう完全卒業なので、PTAに関わることがありませんが、ぜひともそれは、今後続けていけるようにお願いしたいと思います。

○清水委員

ありがとうございます。どうしたらそれが行き渡るようになるか、経験上でも結構ですけど、地域と学校で協力して学校が変わっていくということについて、もうちょっとアイデアがありましたら。

○大藤区PTA会長

私が話をしたのは、まずは校長先生。地域の連合町会長さんとかにも声を出して、頑張ってもらえるように学校にも、もちろんPTAですから親にも声を上げていきますので協力してくださいというお願いはしました。

○岩井部会長

区長さん、校長先生の経験からどうですか。

○山口生野区長

そうですね、言っていたけるとありがたいです。保護者としてこういうところが心配とかね。ただ、学校は外に出せない情報も実はあります。例えば教員の病欠というのは結構多かったりとかして、その先生がしんどくて、なかなか来られないとか、ちょっと不安定であるとか、そういうのを言ってしまうとまた不安が広がっていったりするところもあって言いづらいところがあります。しかし、それはやっぱりPTA会長であったり、連合会長さんであったり、地域であったり、不安はぶつけていただいて、あと学校公開とかしてるとき、土曜授業でありましたり、見られるときに見に行っていたきたいんです。学校の現場、子どもたちの様子をぜひ見てください。

そして、ちょっとだけこれはおまけのお願いなんですけど、先生たち、すごく頑張ってます。大阪市の小中学校は18時以後電話に出なく

てよくなったの、知ってますか。私も校長室に22時でも電話がかかってきました。それを全部対応してたら過労で倒れていく教師が多いので、一旦18時で電話を受け付けなくなるようにしました。緊急のときは、警察事案とかそういう大きな事案になりますので、そういった先の連絡先は事前にちゃんとお示しした上で、申しわけないけれどもちょっと1回18時で電話を切りかえますという形に変わっています。そのぐらい学校というのはもう抱え込み過ぎてぱんぱんになってるのと、若い先生が増えてなかなか育たない中で一生懸命頑張ってるので、頑張ってるところをほめつつ、でももっとこうしてほしいとか、こうしたいほうがいいのではというふうに言ってもらえるとすごくうれしいです。

○大藤区PTA会長

先ほど区長がおっしゃられたように、地域の学校も古い先生がかなり入れ代わって若い先生に移り変わってるんです。ただ、その若い先生を管理職の先生が相当しっかり引っ張ってくれたと、僕はそう感じてるので。学校が終わってから、例えば職員室の前に長机が置いてあって、聞きたいことがあったらその前で1時間でも2時間でも教えてくれる。そういう環境をつくってくれたので、僕は今の校長先生にはものすごく感謝してます。実際成績が上がっていったというふうに感じてますので。

本当に、やれる校長先生、やってくれる先生、本当にありがたい。親としては感謝してます。ありがとうございました。

○清水委員

そろそろ議論の時間を閉じたいと思うんですけども、最後にこれだけはということはございませんでしょうか。

○新井委員

すみません、いっぱい発言してるんですけども、「広報いくの」が手元にありますので、この「広報いくの」が、朝入ったときにすごく生野区が変わったなとか、人が見える生野区になったなというのがすごく正直な気持ちで、中も見させてもらったらすごく読みやすい。本当に、これを私、持ち歩いてるんです。何か調べたいというときに調べやすい。1つのことに特化しないで、たくさんのがわかりやすく載ってるんですね。

最後の「山口照美のてるてるだより」も本当にうまくできてるなと思うぐらいネーミングもよくて、この広報で生野区が変わったなということが、この中にも私たちが今一生懸命話し合ってるこどもの未来部会のことたくさん載ってるんですね。やっぱりこういうところで、会議の中で議論するだけじゃなく、目に見えたところで区がこうやって広報に出していただくというのはすごくありがたいなと思ったし、本当に皆さんが手にとって、本当に私みたいに持ち歩けるような広報

ができ上がったことにすごく感謝しています。

○清水委員

本当にカラフルで見やすく、私も他市に住んでるんですけども、いいなと思いました、正直。ありがとうございます。

それでは、以上でご意見等がないようですので、意見交換を終了させていただきます。

○岩井部会長

今日は多種多彩なご意見をいただきまして、非常に有意義な会議となりました。ありがとうございます。

清水委員、どうもありがとうございました。

それでは、事務局から連絡事項がありましたら、お願いいたします。

○橋本企画総務課長

委員の皆様、お疲れさまでございました。本日いただきましたご意見につきましては6月14日に開催を予定しております全体会で部会としてご報告をいただくことで、他の部会の委員の皆様にも共有をしていただくこととしております。

報告内容につきましては、事務局でひとまず整理をさせていただきますまして、岩井部会長や本日進行を務めていただきました清水委員と調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局からの報告は以上でございます。

○岩井部会長

ありがとうございます。

それでは、区長さんに締めてもらいます。よろしく申し上げます。

○山口生野区長

いろいろなご意見、ありがとうございます。

学校再編のことは、話さないでという意味ではなくて、もちろんそこも含めて生野区の未来、どうあるべきかということは議論すべきだと考えています。ただ、平成25年ぐらいからずっと議論は続けてるんですけども、私としては教育的な観点の中でずっと説明もし、お話もさせていただいています。いろんな場面で疑問にもお答えはしています。その私の言葉の一部が違う形で広まっていったりであるとか、そういった意味では大変つらい思いをした場面もたくさんありますので、「ちょっと再編のことがわからない」というときはぜひ区役所に聞いていただけたらありがたいなと思います。いくらでも説明しますし、こういう集まりがあって聞いてほしいということ、私たちの気持ち、聞いてほしいとかもっと説明してほしいということがあれば、跡地の話も今日ご意見いただきましたけれども、聞いていただければご説明に上がりますので、その点どうぞよろしく申し上げます。

地元の学校、そしてこどもたちの様子、日々また見ていただいて、気になることは伝えていただければうれしく思います。本日はどうも



ありがとうございました。

○岩井部会長

今日はどうもありがとうございました。区長さんに立派な最後の締めをしていただきまして、どうもありがとう。

それでは、これで終わります。